

2020年サントリー地域文化賞受賞  
旗揚げ25周年

# 人形浄瑠璃 猿八座公演

## 説経 をぐり

三段目 鬼鹿毛曲馬  
毒酒

五段目 墓割れ  
照手車曳き

2022年  
6月12日(日)

13:00 開場 13:30 開演 15:00 終演予定

会場 | 3階多目的ホール(ドナルド・キーン・センター柏崎)

定員 | 50名(要予約)

鑑賞料 | 1,000円(当日会場にて猿八座応援金として募金し、  
全額を猿八座へ寄付します。)

※当館への入館料は別途必要です。

問合せ | 0257-28-5755(ドナルド・キーン・センター柏崎)

次回公演は、9月11日(日)13:30~ 演目「耳なし芳一」「貉」を予定しています。 **ドナルド・キーン・センター柏崎**  
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI



浄瑠璃 | 渡部 八太夫

人形 | 西橋 八郎兵衛、堀 八島、逸見 八里、永野八尋、長谷川 眞八、  
石井 紫猿、篠田 八助

解説 | 川村 知行(上越教育大学名誉教授)

## 「説経 をぐり」 あらすじ

＜二段目までのあらすじ＞

二条の大納言には世継ぎが無く、鞍馬の毘沙門に申子をして男児を授かる。18歳で元服して常陸小栗と名乗り、代わるがわる72人の妻を迎えるがいずれも気に入らず、やがて大蛇の化身と契ったことが都中の噂になり常陸の国に流される。そこで相模の郡代横山家に照手という美しい姫がいることを知り、強引に婿入りする。

今回上演!



＜三段目 鬼鹿毛曲馬の場＞

怒った横山一門は、小栗を人食い馬の鬼鹿毛の餌食にしようとするが、小栗は鬼鹿毛を見事に乗りこなす。

＜三段目 毒酒の場＞

横山家の三男三郎の奸策で酒宴に招かれた小栗と十人の侍は、毒酒を盛られて殺害される。

＜四段目＞

照手姫も父の怒りを買って海に流されるが浜に流れ着き、慈悲深い漁師に養われるが、嫉妬深い妻は夫の留守中に照手を人買いに売る。次々と人買いに売られた照手は、美濃の国、青墓(おうはか)の宿「万(よろづ)屋」という遊女屋に買い取られる。亡き小栗を想う照手姫は遊女になれという主人の命を拒み、代わりに十六人分の水仕事を一人でこなす奉公を続けている。

＜五段目 墓割れの場＞

毒殺された小栗は冥途で閻魔大王により無罪の裁きを受ける。小栗を埋葬した墓が割れ、変わり果てた姿となつてうごめく小栗を、藤沢遊行寺のお上人がを見つけ、餓鬼阿弥と名付けて「熊野本宮の湯に入れば本復する」と書かれた閻魔自筆の胸札に「この者を一曳き曳けば千僧供養、二曳き曳けば万僧供養」と書き添えて土車に乗せる。藤沢から東海道を次々と人々に曳かれた土車は、美濃、万屋の門前で曳き手が無く三日間放置される。

今回上演!



＜五段目 照手車曳きの場＞

餓鬼阿弥を見た照手は、それが自分の夫であるとは知らず、夫の供養のために主人に五日間の暇を乞い、近江関寺まで土車を曳く。

＜その後＞

熊野湯の峰の湯にたどり着いた餓鬼阿弥は、湯につかって元の小栗の姿に戻り万屋を訪ね、照手と再会、常陸の長者として夫婦共に天寿を全うする。